

The Chronological Table of Literary Report in Hokkoku Shinbun Showa No. 6

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/478

『北國新聞』文芸関係記事年表稿(昭和篇⑥)

The Chronological Table of Literary Report in The Hokoku Shinbun (Syowa No. 6)

Eiichi MORI

森 英一

この年表は本紀要第五十一号(平成14・2刊)の『北國新聞』文芸関係記事年表稿(昭和篇⑤)を承けるものである。調査に際しては、金沢大学附属図書館所蔵のマイクロフィルムを使用した。

昭和二十九年

- 11 「愛でたい」ということ」平林たい子
 ♪ 「新年御題にちなむ」(☆短歌5首) 尾山篤二郎
 ♪ 小説「なべて頂きの上に」 深田久弥
 ♪ 「眼鏡」(☆新年文芸コント入選一席) 葛原由布子
 ♪ 「北国小吟」(☆短歌6首) 岡部文夫
 ♪ 「正月の思い出」 伊藤武夫
 ♪ 「迎春」 木村荘八
 ♪ 童話「うめの花のおねえさん」 小川未明
 ♪ 「六年ぶりの正月」 湯川秀樹
 ♪ 「新年文芸入選作」(☆短歌、俳句、推薦の言葉) 尾山篤二郎、水原秋桜子
- 11 「コント 年賀状」 井上友一郎
 ♪ 小説「慶祝至極」 源氏鶏太
 ♪ 「寸松論」 吉川英治
 ♪ 「初釜」(☆俳句5句) 水原秋桜子
 ♪ 「小説の誕生」 室生犀星
 ♪ 5夕「新版羅生門」 白井喬二 7・23 200回完
 ♪ 「作者の言葉」 丹羽文雄
 ♪ 「飾る船」(☆俳句5句) 山口誓子
 ♪ 「自然と良風美俗」 中西悟堂
 ♪ 6 「楽天家の正月」 大仏次郎
 ♪ 8 「今朝の春」 丹羽文雄 7・17 190回完
 ♪ 13 「貧乏国救済法」 石川達三
 ♪ 「罪と罰」 花田清輝
 ♪ 15 「元服」 村上元三
 ♪ 20 「初荷船」 中村汀女
 ♪ 「寒の内」 荻原井泉水
 ♪ 23 「庶民の理想的人間像？」 小松伸六
 ♪ 「暖冬」 石井柏亭

- 1 23夕「植物と九十三年」牧野富太郎 3・4 40回完
 2 1「東京だより」小松伸六 3日2回完
 ♪ 「学術会議の使命」茅誠司
 3 「内側の鬼」中島健蔵
 5 夕「子供のためのお話」石井桃子
 6 「建国記念日を設けよ」木村毅
 7 「北国俳壇」(☆選者 水原秋桜子)
 11 「教育をめぐる」中立「合戦」大宅壮一
 12 夕「海苔と能登」梶井幸代
 13 「花木の冬」室生犀星
 ♪ 夕「ネギ束」細見綾子
 14 夕「名将と名馬」海音寺潮五郎
 20 「早春の旅」草野心平
 24 「乱世」立野信之
 25 夕「北国俳壇」(☆選者 水原秋桜子)
 27 「現代の若い人」堀田善衛
 ♪ 「平林たい子の文学」荒正人
 ♪ 「旅館女中のこと」古谷綱武
 28 「作者のことば」佐々木邦
 3 1 「人生は七十%」佐々木邦 7・14 135回完
 ♪ 「桃色の幻想」春山行夫
 ♪ 「山村迎春」結城哀草果
 ♪ 「単純すぎる」平田次三郎
 ♪ 「七十五日で忘れられる小説」高橋義孝
 ♪ 夕「温泉場の優等生」伊豆蔵節子
 5 夕「汚食族」山上千太郎
 6 「北陸路を行く『謎の女』」谷口陸男
 8 「朝湯」鈴木紀子
- 3 8 「文芸時評」本多顕彰
 ♪ 「児童文学はこれでよいか」国分一太郎
 ♪ 童話「万に「羽の光る鳥」北畠八穂
 ♪ 「妻としての作家」小堀甚二
 ♪ 「尾山城の自然」木村久吉
 11 「親鸞と日蓮」橋本芳契
 14 「春の訪れ」武者小路実篤
 19 「彼女の歩んだ道——田中路子の『滞欧二十年』」深田久弥
 21 夕「被岸」吉田絃二郎
 22 夕「自然のこゝろ」高野素十
 23 「マグロ診断」津川洋三
 25 「金沢のミス」高光一也
 26 「現代美術展の十年」高橋勇
 27 「庭の桜」水原秋桜子
 29 「現代小説にみる恋愛のかたち」山本健吉
 ♪ 「失われた青春」福永武彦
 ♪ 夕「春の着物」円地文子
 4 4 夕「スポーツ随想野球ピクアップ帳」サトウ・ハチロー
 9 日6回完
 ♪ 「北国歌壇」(☆尾山篤二郎選)
 5 夕「修学院離宮記」久保田正衛
 8 「古九谷の美」北出塔次郎
 9 「芽木に触る」(☆俳句7句)細見綾子
 10 「北国柳壇」(☆麻生路郎選)
 12 「失われたバツク・ポーン」青野季吉
 ♪ 「北国俳壇」(☆水原秋桜子選) 14・19日
 16 「物判りの良さと諦め」平田次三郎
 16 夕「洗練された人」荒 正人

- 4 17 「文学と政治」阿部知二
 18 「浜中さんの思い出」伊藤武夫
 ♪ 「太い眉」岡部文夫
 20 夕「イチゴと牡丹」円地文子
 ♪ 「一向変 続けるに当って」久保田正衛
 21 夕「運如忌」久保田正衛
 26 「大衆娯楽の今日的諸相」大宅壮一
 5 1 「北国歌壇」(☆選者・尾山篤二郎)
 2 夕「モデルとなつて」梶井重雄
 3 「法の支配について」田中耕太郎
 ♪ 「記念の日に思う」長与善郎
 5 「四月の句」山上千太郎
 7 「美的サロンの建設」石川県美術館設計案」谷口吉郎
 8 「母をたゝえる」暁鳥敏
 10 「風刺文学の成立」中橋一夫
 ♪ 「山吹」細見綾子
 13 「書評」(☆鈴木健郎、池田亀鑑、十返肇)
 14 「方言の魅力」金田一春彦
 17 夕「民衆の笑い」麻生磯次
 20 「郷土文芸運動の一断面」藤田福夫
 ♪ 「パリで見たこと」中川一政
 21 「浮世絵の現代性」東郷青児
 22 「北国柳壇」(☆水原秋桜子選)
 23 夕「痴漢と少女」大下宇陀児
 24 「子供と映画」春山行夫
 ♪ 「北枝小伝」殿田良作 27日4回完
 27 「短歌の生命は―」小田切秀雄
 ♪ 「現代俳句の盲点」山本健吉
- 5 27 夕「新しい教養書」平田次三郎
 30 夕「カメラと私」東郷青児
 31 「二つの手記」平林たい子、小堀甚一
 ♪ 「六月に思う」深尾須磨子
 ♪ 「知事と副知事の対立」大宅壮一
 6 4 「洋画家の生活」堀忠義
 5 「碧玲瓏特集」(☆蔵月明、中本恕堂、石塚友二、追悼句)
 虚子他10句)
 9 「存在と苦」西谷啓治
 ♪ 「生死並有の吾れ」藤原鉄乗
 12 「女子大生の文学的生態」福田清人
 14 「知識人と政治」中島健蔵
 ♪ 「梅雨時と春ゼミ」室生犀星
 ♪ 「芦田高子著『歌集内灘』によせて」上山南洋
 18 「文化交流の遮断」青野季吉
 ♪ 「作家の冒険の場所」丹羽文雄
 19 「コクトーよ引返せ」春山行夫
 20 夕「太宰の死」壇一雄
 ♪ 「軽さということ」花田清輝
 23 「人類の善意を問う」梶井重雄
 26 「上半期の回顧」本多顕彰
 28 「主流、荒地派の行詰り」菱山修三
 ♪ 「婦人とヒマラヤ」深田久弥
 7 2 夕「女性の文学熱」平田次三郎
 3 夕「好み」星野立子
 8 夕「山と文学」田部重治
 12 「チェーホフ五十年忌」米川正夫
 ♪ 「近江絹糸」伊藤永之介

- 7 13 「文芸会館」青野季吉
 15 夕「忘却のふるさと」菊田一夫 30・3・17 240回完
 17 「女の宿命への同感」佐多稲子
 18 「女ひとり」平林たい子 12・15 150回完
 ♪ 夕「江戸趣味と現代」矢田挿雲
 20 「大衆文学という名への抵抗」村雨退二郎
 ♪ 「少女少女のよみもの」村岡花子
 ♪ 「ピキニとウナギ」火野葦平
 ♪ 夕「夜光虫の海」阿川弘之
 23 夕「映画と文学」田宮虎彦
 24 夕「読ませる批評」吉田健一
 ♪ 夕「檜の権三」土師清二 30・1・28 183回完
 26 「休戦」深田久弥
 27 夕「一首旋風」木俣修
 28 「ゆかたの女・絵と文」宮本三郎
 ♪ 「人を殺せぬ人間を」長田恒雄
 29 夕「山吹清談」飯田蛇笏
 31 夕「花作り」春山行夫
- 8 1 「名人円朝をしのぶ」林家正蔵
 2 「明治物の流行について」本間久雄
 ♪ 「將軍の思い出」絵と文・有島生馬
 ♪ 夕「耳について」室生犀星
 5 「温泉・女・文学放談」舟橋聖一
 6 夕「山にのびる」草野心平
 9 「八月号文芸雑誌評」十返肇
 10 夕「旅券」勝本清一郎
 11 夕「シナリオを書く作家たち」今村太平
 12 「書齋登山」山下久男
- 8 13 夕「喧嘩相手」安岡章太郎
 14 「もらいものの自由」本多顯彰
 ♪ 「児童文学の行方」池田宣政
 16 「評論の随筆化」花田清輝
 ♪ 「歌集『林道』に寄せて」上山南洋
 17 夕「庶民の休養」芹沢光治良
 23 「文芸放談」荒正人、十返肇
 24 「残暑」伊藤信吉
 26 「大衆もの」と「純文学」青野季吉 27日完
 27 記事「暁烏敏氏けさ死去」
 28 「暁烏さん」室生とみ子
 ♪ 「政治と文学」青野季吉
 9 1 「暁烏師を憶う」佐々木象山
 ♪ 「人間暁烏先生の思い出」毎田周一
 ♪ 「好きなもの」藤原鉄乗
 ♪ 「暁烏文庫のこと」清水暁昇
 2 「新聞小説論の展開」無署名
 ♪ 「忍術、冒険物の流行」北村小松
 ♪ 夕「旧友」丹羽文雄
 3 「秋と女性」岩田専太郎
 ♪ 「芸術理論家のルカーチ」佐々木基一
 4 夕「食えない原因」平林たい子
 7 「秋立つ文学」福田清人
 ♪ 記事「北国新聞小説作家原稿展」(☆7日～11日)
 8 「私も窓の下で」室生犀星
 ♪ 「大樹」大仏次郎
 ♪ 「衣替え」陣出達朗
 ♪ 「父母のような」平林たい子

- 9 8 「四高のころ」北村喜八
 9 「えにしも深く」深田久弥
 ♪ 「思想・趣味・教養を語る」本多顕彰
 ♪ ♪ 「吉田首相の外遊」翁久允
 11 「中秋名月」水原秋桜子
 15 「農村旅行に感あり」堀田善衛
 16 ♪ 「英雄をさがす」田宮虎彦
 17 「失意の詩人十河桂舟」藤田福夫
 ♪ 「綱村さんの処女歌集『林道』」牛丸芳夫
 19 記事「下本多町はまだあるかね、米国から帰朝の鈴木大拙」
 20 「台風と文学」志田延義
 27 記事「秋の山中で句会、秋桜子氏迎え五十余名集う」
 ♪ 「秋来」木村荘八
 28 「秋風落莫」中川一政
 10 1 対談「水原秋桜子と語る」
 ♪ 「日本新聞の特殊性」長谷川如是閑
 2 「北国歌壇雑話」尾山篤二郎
 ♪ 「諸家の大衆文学論を評す」中谷博
 5 「中国文学余話」吉川幸次郎
 ♪ 「死のない子供の世界」三枝博音
 6 記事「芭蕉の足跡訪ねて、荻原井泉水氏来沢」
 ♪ 「文士と読書」伊藤整
 ♪ 「英国の旧友」斎藤勇
 8 「文学に学ぶモラル」関根秀雄
 11 「牧水忌」斎藤史
 ♪ 「最近の短歌書、多い女流歌集の出版」無署名
 15 「版画の味」恩地孝四郎
 16 「清方先生の歴史」木村荘八
- 10 16 「虚子翁を祝う」山本健吉
 27 「読書・文学の三段階」中谷久弥
 ♪ 「書評・石川淳『鳴神』」安部公房
 ♪ 記事「県立図書館、最近の読書傾向」
 28 「翻訳うらばなし」伊吹武彦
 29 「最近会った歌びと」綱村流水
 ♪ 「美術の社会性」奥田憲三
 11 5 「中国の女達」奥野信太郎
 9 「ふるわぬ県下の文学活動」無署名
 11 「高校生の作家傾向」津田嘉信
 ♪ 「オスボーン博士と伍堂卓爾」下村海南
 17 「しぐれ」杉原竹女
 18 「私の反時代的考察」竹山道雄
 ♪ 「俳句反省の弁」沢木欣一
 ♪ 「事実と小説」西村孝次
 ♪ 「詩の本質」江口榛一
 19 「日本語への愛情」塩田良平
 ♪ 「郷土の方言」岩井隆盛
 23 「今後の工芸のあり方」松田権六
 ♪ ♪ 「遠景」西 敏明
 25 「俳句の即物主義」西東三鬼
 26 「時評・犀星の近作」花田清輝
 ♪ ♪ 「農村婦人の俳句」細見綾子
 30 「地方色の積極化」中島健蔵
 ♪ 「文壇に情実なし・作家になろうとする人の為に」杉森久英
 12 2 「啄木への郷愁」小田一郎
 ♪ 「雑誌はどうあるべきか」十返肇
 4 「演劇教室」勝尾金弥

- 12 7 「野心的なサラリーマン小説」奥野健男
 ♪ 「億万長者」と女性に関する十二章」西義之
 9 「小説文学の一般普及」室生犀星
 ♪ 「一年を回顧して」円地文子
 ♪ 「この一年の文学界」十返肇
 ♪ 「作者の言葉」小島政二郎
 16 「春の地図」小島政二郎 30・6・15 180回完
 ♪ 夕「今年の県下俳壇覚書」黒田桜の園
 21 「歌壇への走り書」上山南洋
 23 「一九五四年の文壇回顧」青野季吉
 24 夕「草蘆歳晩」富安風生
 25 「作者の言葉」富田常雄
 28 「年の瀬」佐々木邦

昭和二十年

- 1 1 「短歌」(☆尾山篤二郎5首、佐藤佐太郎3首、窪田空穂3首)
 ♪ 「原子と人間」湯川秀樹
 ♪ 「俳句」(☆水原秋桜子5句)
 ♪ 「初姿銭形平次」野村胡堂
 ♪ 「若草軍記」富田常雄 30・10・30 300回完
 3 詩「冬の朝」三好達治
 ♪ 記事「北国文芸賞受賞者発表」
 4 詩「元日のあいさつ」西脇順三郎
 ♪ 新年文芸創作入選「太い棟木のある家」矢田邦子
 ♪ 夕「蓮如上人」501回 久保田正衛
 5 「お正月の幸福」平林たい子
 ♪ 「新年文芸創作選評」伊藤武雄、深田久弥、森山啓

- 1 7 「本がきれい過ぎる」伊藤武夫
 ♪ 「木にさわる」岡本太郎
 8 詩「雪の結晶」大木淳夫
 11 「作中人物」井上靖
 12 「北国歌壇」(☆斉藤史選)
 13 「はだか随筆の魅力」市村新
 ♪ 夕「犬のプレゼント」斎藤史
 14 「新文学への胎動」丹羽文雄
 ♪ 「北国俳壇」(☆富安風生選)
 15 「北国柳壇」(☆麻生路郎選)
 22 「句集「鬼川」を読んで」北市都黄男
 23 記事「改造に原稿書かぬ 不当解雇に作家十五氏ボイコット」
 26 「実名小説について」十返肇
 ♪ 「今年の文化界に望むもの」青野季吉
 29 「感動ということ」田宮虎彦
 ♪ 「秋桜子氏の近業」黒田桜の園
 ♪ 「新しい戦争文学出でよ」(☆無署名)
 ♪ 夕「青雲飄々」宮本幹也 8・17 200回完
 31 「梅崎春生と直木賞の作品」椎名麟三
 ♪ 「芥川賞の小島と庄野」荒正人
 2 3 「雪と歌」青山兵吉
 ♪ 「雪」中谷宇吉郎
 6 「昨年の図書閲覧状況・県立中央図書館」(☆記事)
 7 「芥川賞をめぐる四人の作家」(☆記事)
 14 「ソヴェト作家同盟のこと」米川正夫
 ♪ 「その後のサルトルとカミュ」白井浩司
 15 「現代文学の課題」佐々木基一

- 2 15 「短歌におけるフィクションについて」 芦田高子
 18 「坂口安吾を悼む」 荒 正人
 ♪ 「ヒューマニズムと感傷」 太田洋子
 ♪ ♪ 「生活の余情」 津田嘉信
 20 夕 「正しい婦人運動のために」 芦田高子
 22 「親たちへの贈りもの」(☆書評) 佐多稲子
 28 「クロードルの死」 遠藤周作
 3 3 「小説の普遍性ということ」 西義之
 ♪ 「谷崎潤一郎の一転機―『蓼喰ふ虫』をめぐって」 谷本敏雄
 ♪ 「書評・石川淳『虹』」 小泉謙
 5 「相国愛―一婦化人の感想―」 野口赫宙
 ♪ 「書評―秋元不死男『俳句入門』」 沢木欣一
 7 「文学作品の中の美術」 鎌原正巳
 8 「坪田譲治さんのこと」 福田清人
 10 「書評・川端康成『山の客』」 佐伯彰一
 11 夕 「遠ちゃんを憶う」 黒田桜の園
 15 「中原中也の詩風」 熊田真紀子
 ♪ 「子供は何を考えているか」 国本昭二
 16 「作者の言葉」 林 房雄
 18 「安吾と捕物帳」 花田清輝
 ♪ ♪ 「夜空乙女」 林 房雄 9・14 180回完
 22 夕 「北陸新協新人公演を見る」 青山兵吉
 23 「読書と人生」 山本外吉
 ♪ 「書評・山本健吉『鎮魂歌』」 杉森久英
 ♪ 「書評・中村真一郎『冷たい天使』」 本多秋五
 24 「民族の倫理的課題―宗教と文学の対決―」 佐古純一郎
 29 「『赤と黒』について」 深田久弥
 ♪ 「今月の雑誌から」 平田次三郎、佐々木基一
- 4 11 「小説の中に咲く桜―名作『細雪』をめぐって―」 福田清人
 13 「啄木の文学精神」 竹内昭
 ♪ 「大衆文芸の現況」 左文字雄策
 14 孤児、菊田一夫氏に実の母、四十六年目になきがらと対面(☆記事)
 15 明るみに出る「於銀小金の物語」(☆記事)
 19 「中間小説の行方・作家森山啓氏にきく」
 ♪ 「春の魚」 火野葦平
 22 「日本文化の根」 加藤周一
 ♪ 「アメリカカ文学独立の断面」 牧田徳元
 25 「日本文学輸出への便船」 小松清
 ♪ 「葉桜」 池田亀鑑
 28 「鏡花とポートル嬢」 沢木欣一
 ♪ 「登米子のこと」 谷口鈴江
 5 5 「端午の節句」 志田延義
 ♪ 「書評『遠い声遠い部屋』」 佐伯彰一
 6 「第三新人にみる過渡的反動」 浅見淵
 7 「詩劇について」 中村真一郎
 ♪ 「母と子」 網野菊
 9 夕 「イワシ」 深田久弥
 10 「現代小説の袋小路」 寺田透
 13 「最近の歌と俳句」(☆座談会、沢木欣一、近藤芳美他)
 ♪ 「俳句と社会性」 柏禎
 ♪ 「歌集『五月子』に寄せて」 細見綾子
 15 平林たい子講演会(☆記事)
 16 「沖繩を思う」 山之口貌
 17 「婦人作家」 平林たい子
 ♪ 「中堅作家の代表作」 辻亮一

- 5 17 「北国俳壇」富安風生
19 「五月におもう」高群逸枝
25 「高校生と文芸」佐竹龍夫
 「家持と太政官符」窪田敏夫
26 「ポロ家の春秋」十返肇
6 3 「雲の峰」池内たけし
6 「伝統の文化財・陽明文庫の解説」田山方南
 「北国歌壇五月賞」斎藤史推薦
7 「時評・文化人とは？」花田清輝
8 「新しい男女の交際」北原武夫
10 「山三郎と加賀藩」室木弥太郎
11 「日本文学とイギリス」向井啓雄
 「フランス画信」高光一也
12 「風」の同人原子公平氏俳句道を語る（☆記事）
13 「作者の言葉」吉屋信子
14 夕「小島政二郎さん」山下久男
16 「私は知っている」吉屋信子 12・14 181回完
 「二人人文学者日本を語る」サイデンステッカー、キーン
 「文芸春秋文化講演会今夕（☆記事）」
17 「北陸新協20年の歩み」青山兵吉
18 「文学と封建性」石川達三
 「孤独の人生観」河上徹太郎
19 夕「豊島さんを悼む」阿部知二
20 夕「川柳受難」山田凌中
21 「上半期文壇の収穫」十返肇
 「フランス文学その後」宮川 剛
 「フォークナー来日への期待」西川正身
22 「文学と宗教」高橋文雄
- 7 1 「故郷の山白山きょうから国定」（☆談話）深田久弥
3 「タンテイ小説談義」西義之
 「寂しき真杉静枝の死」十返肇
 「時評・小説家の宿命」花田清輝
5 ほ、えむ鳥の仙人・白山鳥類調査行の悟堂翁（☆記事）
8 世界性をもつ「真空地帯」仏文芸紙・野間宏を称賛（☆記事）
11 「宮沢賢治とその父」長田恒雄
12 「職業化した作家生活」高橋義孝
 「街の図書館」貸本屋、金沢には一町内に二軒の割（☆記事）
 「和田伝の再出発、貴重な文献『日本農人伝』無署名」
13 「精霊流し」川上喜久子
 「まくらの草子金沢版」川口久雄
14 「赤茄子」杉原竹女
 「ある洋画家の生活」堀忠義
15 「花」深田しげ子
17 「お化け芸談」喜多村緑郎
19 「石川県に見る説教の社会性と文学性」（☆座談会、川口久雄、久保田正衛、河合智海）
20 夕「カニの踊り」新保千代子
22 「山峡十年」飯田蛇笏
24 「芥川賞の遠藤周作」荒正人
25 「夏夜」細見綾子
26 「珠洲の夏」小松砂丘
 「伝統文化財への新しい照明」柳宗悦
30 夕「人間・徳田球一氏」荒畑寒村
31 「『高原と峠をゆく』田中冬二 尾崎喜八
8 2 「文学になった国会演説等」加藤周一
3 「浮動期の過渡的芸術」瀬沼茂樹

- 84 「振舞水」八田健一
 ♪ 「北国俳壇」(☆富安風生選)
 ♪ 「北国歌壇」(☆斎藤史選)
 ♪ 短歌は社会情勢に敏感、「国民文学」の松村氏小松で語る
 (☆記事)
- 5 「涼しきもの」伊豆蔵節子
 7 「木津の桃」尾山篤二郎
 ♪ 「加賀の千代」正見二郎
 10 「読書界の戦後十年」無署名
 11 「花火」深尾須磨子
 12 「見た・打たれた！」伊藤武雄
 13 「北国柳壇」(☆麻生詩郎選)
 15 夕「らちやかん節」相沢道郎
 ♪ 「真夏の夢、世界と日本の将来」中野好夫
 17 「トーマス・マンの死」高橋健二
 ♪ 「書評・石川達三『不安の倫理』」十返肇
 18 「自然主義を抜ける道」遠藤周作
 ♪ 夕「酔いどれ牡丹」角田喜久雄 31・7・17 328回完
 21 「金沢を去る」深田久弥
 22 「フランスみやげ」高光一也
 ♪ 夕「自転車で能登を」勝尾金弥
 23 「戦後十年の新劇」小幡義夫
 ♪ 夕「童話『二階とゆうれい』」小納弘
 25 「書評・幸田文『黒い裾』」円地文子
 28 「初秋」川田順
 ♪ 「晩夏」堀辰雄
 ♪ 「ある老婆の話」野川日出雄
 29 「『白い人』と『人道の英雄』」浅見淵
- 829 「長野の旅より」若林のぶ
 30 「七百余句を収録、発行された石川県公民館俳句集」(☆記事)
- 92 「中野重治『夜と日の暮れ』」小田切秀雄
 5 「北国歌壇八月賞」斎藤史推薦
 6 「良い童話悪い童話」木田辰夫
 ♪ 「北国歌壇」(☆尾山篤二郎選)
 ♪ 「北国俳壇」(☆富安風生選)
 7 「映画評・悪魔のような女」西義之
 10 兼六園の芭蕉句碑は私有物(☆記事)
 11 「能登の昔話」四柳嘉孝
 12 夕「能登に泉あり」梶井幸代
 13 「作者の言葉」藤沢桓夫
 15 夕「君は花の如く」藤沢桓夫 31・7・21 304回完
 16 「牧水先生をしのぶ」青山兵吉
 ♪ 「花鳥風詠・高浜年尾氏の現代俳句批判」(☆無署名)
 19 「学生の読書に対する一般的な助言」翠川潤三
 ♪ 学生読書傾向(☆記事)
 21 「詩人は時代の良心」若田高子
 ♪ 叙情詩から抵抗詩へ(☆記事)
 22 戦後の出版物は全く悪質、白秋門下の童謡詩人、巽氏来泉
 (☆記事)
 23 「川柳作家の反省」桜井六葉
 25 夕「八雲忌に思う」杉江順三
 26 「童話の型と新しさ」巽聖歌(☆談話)
 ♪ 「北国八月俳壇賞」富安風生推薦
 27 「晶子の人と文学」深尾須磨子
 ♪ 佐藤佐太郎 来泉(☆記事)
 29 「文化人と商人・ゾラ忌に思う」宮川剛

- 9 29 北国俳壇選者に沢木欣一氏も（☆記事）
- 10 2 「豊作景気と秋祭り」和田伝
- 4 「上林暁『入社試験』」外村繁
- 6 「金なきゆえの不幸」中野好夫
- 夕「葡萄と俳句」竹田幽生
- 7 「映画と文学を語る」（☆出席十返肇、梅崎春生、堀田善衛）
- 14 「日本文俗学の系譜」大間知篤三
- 17 「祖国への再認識」谷川徹三
- 18 「総合雑誌の課題」戸頃重基
- 19 「芭蕉と現代詩」沢木欣一
- 夕「加賀の千代女全集」大西喜三次
- 21 「菊花の文学的性格」川田順
- 24 「わが青春と読書」桶谷繁雄
- 25 「わが青春と読書」有馬頼義
- 26 「わが青春と読書」大宅壮一
- 27 「立川文庫と新書版」野口正喜
- 夕「わが青春と読書」奥野信太郎
- 夕読書アンケート（☆回答者、中村光夫、高村光太郎、井上靖、他）
- 31 「北国歌壇」（☆尾山篤二郎、斎藤史選）
- 夕「北国俳壇」（☆富安風生、沢木欣一選）
- 夕「作者のことば」山岡荘八
- 11 1 「坂本龍馬」山岡荘八 31・9・17 320回完（前編）
- 2 「歌ごころと鑑賞の目」（☆対談、宮柁二と斎藤史）
- 3 「高峰讓吉博士の人と業績」沢田謙、池田宣政、橋爪檳椰子
- 5 夕「啄木と表札物語」島崎豊
- 6 「金沢のツムギ」中西悟堂
- 8 夕「兼六園について」小松砂丘
- 11 「指導者の『経歴書』」宮本憲一
- 11 13 「堤千代さんを悼む」平林たい子
- 夕「特集私のノスタルジア」森山啓、戸田正三他四名
- 18 「平凡・明星」文化の実態」杉浦明平
- 夕「徳田秋声先生の思い出」宮内寒弥
- 夕「風」百号に寄す」上山南洋
- 夕「俳人大野林火氏来沢（☆記事）」
- 21 「十二月号総合雑誌評」鶴見俊輔
- 夕「風」百号記念北陸俳句大会（☆記事）
- 22 「西田先生と郷土愛」橋本芳契
- 29 「アメリカ文学の底流」大島仁
- 夕「郷土の面白い物語、石川県童文が出版（☆記事）」
- 12 1 「雪嶺翁の思い出」中村研一
- 2 「世界の裏街道を歩く」大宅壮一著」草野心平
- 4 「郭沫若氏を迎えて」阿部知二
- 夕「債鬼」綱村流水
- 夕「チャルメラ」細見綾子
- 5 「ことしの回顧・文壇」十返肇
- 夕「犀星文学の生命・随筆『女ひと』に思う」大沢衛
- 夕「鶴彬のこと」浜民兵
- 夕「ちかごろの詩歌俳壇から」無署名
- 7 「漢字は亡びるか」魚返善雄
- 8 「戦争と個人」大井広介
- 9 「即天去私の世界観・漱石忌に寄せる」沢木茂正
- 10 夕「西田博士と私」林広子
- 12 「蓮如の新和漢連歌」久保田正衛
- 15 「顔と心」川口松太郎 31・11・16 335回完
- 16 「米山さんとともに」駒井しづ子
- 18 「椎名麟三『美しい女』」宮内寒弥

- 19 「大衆文芸この一年」土肥涉
 20 「総合雑誌評・新年号」鶴見俊輔
 25 「身辺歳晚」富安風生
 27 「現代日本小説の方向」杉浦明平
 「人生論流行の解剖」荒正人
 「ことしの回顧・詩壇」村野四郎
 28 「俳句への善意悪意」山本健吉
 「私の決算報告」伊藤武雄
 29 「詩の教室」高橋新吉
 「作文ばやりの陰に」勝尾金弥
 「北国歌壇」(☆尾山篤二郎、斎藤史選)
 「北国俳壇」(☆沢木欣一、富安風生選)
 31 「あの音この音」長田恒雄
 「丹羽文雄著『告白』」小泉謙
- 昭和三十一年
- 1 「早春謹詠」(☆短歌5首)尾山篤二郎
 「科学の本質と進歩」湯川秀樹
 「第三回北国文芸賞受賞者作品」(☆短歌、俳句、川柳)
 詩「新年」草野心平
 「春の試合」五味康祐
 3 「郷土作家十人集・新春随想」(犀星「正月の着物」、北村喜八、矢田挿雲、杉森久英、深田久弥)
 「年令と正月」伊藤整
 「新年五首」斎藤史
 「新年文芸創作入選作・耳かざり」せき・ゆきお
 「世界を相手の日本文学」芹沢光治良
- 1 4 「郷土作家十人集・新春随想」(橘外男、森山啓、山田克郎、陣出達朗、尾山篤二郎)
 5 「坂本龍馬と正月」山岡荘八
 6 「実録加賀騒動」副田松園
 9 「長編小説の流行」十返肇
 「新年創作合評」(☆対談、森山啓、伊藤武雄)
 「一億石の期待」和田伝
 「美しい人」横山美智子
 13 「文学と映画」瀬沼茂樹
 15 「人生の門出」武者小路実篤
 「歌会始寸感」上山南洋
 16 「新しい民族の歌と踊り」木下順二
 「ヤブイリ今昔」神崎清
 17 「卒業すべき島国根性」森有正
 18 「ブーム続きの剣豪もの」浅見淵
 19 「金沢の旅をめぐって」伊藤信吉
 20 「ニセ札今昔」松本清張
 24 「お多福の弁」安川久留美
 「鏡花の未発表の作品」瀬沼茂樹
 27 「芥川賞と直木賞受賞者に寄せて」奥野健男、檀一雄
 30 「南極を支配するもの」中谷宇吉郎
 21 「立春前後」結城信一
 2 「タバコ」木々高太郎
 3 「李花亭主人素描」川口久雄
 青野季吉氏、芸術院会員に内定(☆記事)
 7 「金沢主婦と東京婦人その文学的考察」小松伸六
 8 「台湾海峡の波」邱永漢
 「近代史回顧の欲求」西野辰吉

- 2 10 「井伏鱒二さんの文学」梅崎春夫
- 13 「新しい人間の成長」小田切秀雄
- 14 「黒兵衛」沢木欣一
- 〃 「近詠」(☆短歌5首) 斎藤史
- 21 「海の暁紅」(☆7句) 水原秋桜子
- 26 第一線作家の書齋井上靖氏(☆記事)
- 28 同右 山手樹一郎氏(☆記事)
- 29 「無駄を無くする運動」尾山篤二郎
- 〃 「疲労の時代」遠藤周作
- 3 2 「女性と歌ごころ」乾さんの『雪炎』に寄せる」藤田福夫
- 5 第一線作家の書齋五味康祐氏(☆記事)
- 7 同右 田村泰次郎氏(☆記事)
- 8 「北国歌壇」(☆尾山篤二郎、斎藤史選)
- 〃 「北国俳壇」(☆富安風生、沢木欣一選)
- 9 「代牢物語―旧藩時代の情愛の一面」津田進 11日完
- 〃 第一線作家の書齋海音寺潮五郎氏(☆記事)
- 11 「千代尼伝」寥寥山人 4・24 45回完
- 〃 「金沢で八年」細見綾子
- 〃 「情趣に乏しい―写真文庫の石川県を見て」深田久弥
- 12 第一線作家の書齋壇一雄氏(☆記事)
- 〃 「雪道」(☆5首) 斎藤史
- 14 「沢木欣一著の句集『塩田』」西村公鳳
- 〃 第一線作家の書齋子母沢寛氏(☆記事)
- 15 「陽炎」山口茂吉
- 24夕「芭蕉と寿貞尼」殿田良作
- 26 「近作」(☆5首) 尾山篤二郎
- 〃 第一線作家の書齋神山潤氏(☆記事)
- 27 「明治は生きている」秋山英夫
- 3 27夕「北国柳壇」(☆麻生詩郎選)
- 30 「インテリの弱さ」戸頃重基
- 〃 第一線作家の書齋源氏鶏太氏(☆記事)
- 4 3 「高村光太郎君をいたむ」武者小路実篤
- 〃 「書評松本清張『乱世』」武田繁太郎
- 10 「万葉にみる北陸の歌」松田好夫
- 〃 「能登国歌など十五首」大津有一
- 〃 第一線作家の書齋中山義秀氏(☆記事)
- 11 「桜と日本文学」小田切秀雄
- 〃 「花は桜木人は武士」をめぐって」宮本憲一
- 〃 「桜花を描く戦後の名作―藤森、田宮、伊藤の三作から」無署名
- 〃 「来日スター素描」大岡昇平、石原慎太郎、岡本太郎、他(談話)
- 12 「前衛批判」青野季吉
- 〃 「前衛擁護」安部公房
- 13 「文学性を短歌に結実―啄木忌に寄せて―」船登芳雄
- 15 「北国俳壇」覚え書―復活十五周年記念大会に寄せて―山本清嗣
- 16 「女流短歌の新しい展開」(対談、長沢美津・葛原妙子)
- 〃 「果汁」(☆5首) 斎藤史
- 18 「加賀と謡曲・謡曲と桜」川西友吉
- 20 「文学の興行化」大宅壮一
- 23 「洗潤君の文学修業」山下久男
- 〃 「批評精神を批評する」小島信夫
- 〃 「主体性なき小器用さ―ちかごろ学生の小説」岩谷大四
- 〃 「吉田絃二郎氏をいたむ」青野季吉
- 〃 「犀星『続女ひと』」武田麟太郎

- 4 25 「金沢城物語」 森栄松 7・23 140回完
 26 「大和し美し」 佐藤一英
 27 「堀辰雄『美しい村』」 室生犀星
 「詩人と経済」 伊藤信吉
 「新しい箱のデザイン」 北国克衛
 「勤労詩運動の方向」 浜口国雄
 「サークル詩の足場」 中村慎吉
 27 「蓮如上人」 887回中断
 5 1 「北国歌壇」(☆斎藤史選)
 「北国俳壇」(☆水原秋桜子選)
 3 「卑俗過ぎる憲法改正の歌」 中島健蔵
 8 「新しい女らしさ」 板垣直子
 「若い関係の微妙さ」 佐多稲子
 「山河はあれど」(☆10句) 水原秋桜子
 10 夕「青葉大和の記」 久保田正衛
 14 「アルゴオルの城」 書評「福永武彦
 15 「五月のたより」 尾崎喜八
 16 「今月の詩歌俳壇」 無署名
 17 「イプセン五十年祭」 北村喜八
 「書評『バラの刺青』」 宮内寒弥
 「新緑とホト、ギス」 川口久雄
 26 夕文春講演会、檀・川口、中村氏ら来沢(☆記事)
 27 「文章今昔」 井上 靖
 「黒田節」 源流記」 小西甚一
 28 「日本に欠けたもの」(☆談話筆記) 中村光夫
 「書評『夜明けに進む女性』」 大原富枝
 29 「児童文学の今日の問題」 勝尾金弥
 6 3 「代表者と大将」 奥野信太郎
- 6 4 北国歌壇選者三名に、近藤芳美を迎える(☆記事)
 「蓮如上人」(888回再開) 久保田正衛
 6 中谷宇吉郎氏の人と意見(☆講演要旨)
 8 「京劇来日の影響」 荒正人
 「尾山氏著『大伴家持の研究』を読み」 大津有一
 「芸術家と現代宗教」 高光一也、岡本太郎、水木洋子
 12 「地方文学管見」 森山 啓
 「少数者の文学」 瀬沼茂樹
 13 「日本近代哲学史における西田先生の地位」(☆要旨) 務台
 理作
 14 「探偵小説ブームの正体」 荒正人、田村隆一、杉山信男
 17 「ツユとネコ」 大谷藤子
 「馬」(5首) 斎藤 史
 21 「梅雨と江戸文学」 久松潜一
 「書評『昭和の精神史』」 佐伯彰一
 27 「田植と選挙」 和田 伝
 29 「一番幸福だった時代」 古谷綱武
 7 2 「中央作家・地方作家」 中村喜久男
 「東北人特有のネバリ強さ・南米に行く伊藤永之介氏」 無署名
- 4 「新しい生活を築くために」 今和次郎
 5 「九谷焼吉田窯について」 北出塔次郎
 「金岡と雪舟」 長谷川春子
 「北国歌壇」(☆尾山篤二郎、近藤芳美選)
 「北国柳壇」(☆富安風生、沢本欣一選)
 「蓮如上人」 久保田正衛 923回完
 9 「上半期の回顧」文学」 無署名
 11 「書評『私もまた?』」 大原富枝

- 7 12 「他山の石」村松梢風
 15 「貴司山治文芸対談」
 ♪ 「文芸閑談・堀田善衛氏」
 ♪ 「句集『雉子』に寄せて」乾満寿子
 ♪ 作家ふるさとへ行く・深田久弥（☆記事）
 ♪ 「作者の言葉」林 房雄
 16 「光る日置氏の歴史眼」若林喜三郎、小竹武夫、八田健一
 18 夕「剣と恋」林 房雄 32・1・24 185回完（前篇）
 20 「生活綴方運動の将来」今井誉次郎
 21 「作者の言葉」富田常雄
 22 「藤岡東圃への回顧」川口久雄
 ♪ 「川魚」（☆エッセイ）細見綾子
 ♪ 「東京綺談」富田常雄 33・1・31、546回完
 24 「文芸閑談・川端康成氏」
 25 「期待に応える人々―今官一と南条範夫」檀一雄
 ♪ 「単純素朴な野人―近藤啓太郎」十返肇
 ♪ 「荒地」（☆5首）斎藤史
 31 「売春の文学の横行」江崎徹
 ♪ 「文芸閑談・井上靖」
 8 1 「有意義な文体批評」平田次三郎
 ♪ 「文壇老大家の近ごろ」3、5 3回完
 ♪ 「佐々木先生の歌碑のこと」大谷寛治
 2 「地方文化偶感」安藤次郎
 ♪ 「夏季大学と地方文化」中屋健一
 ♪ 「騒がしき海」堀田善衛
 ♪ 「危機感の喪失」進藤純孝
 6 「夏の風流・昔と今」大沢衛
 ♪ 「文芸閑談・近藤啓太郎氏」
 8 6 「書評『ふるさとの味』」網野菊
 7 夕「立秋」円地文字
 8 「軒すだれ」中村汀女
 10 「一向変―九二四―第二部本願寺戦争」久保田正衛
 11 「リルケ文学のカギ」小原度正
 ♪ 「古典は読まれているか」（☆座談会）
 ♪ 「書評『ロマンラン日記』」荒正人
 13 「奇型」（☆5首）斎藤史
 14 「もはや戦後ではない」（☆三世代からの座談会）
 ♪ 「近詠」（☆5首）近藤芳美
 ♪ 「まだ、戦後、は終らない」本多顕彰
 15 「黙っていてはならぬ」大田洋子
 ♪ 「戦後文学を越えるもの」野間宏
 17 「良き意思への自由・開眼した石川達三氏」（☆談話）
 21 「書評『やどかりの詩』」石川利光
 ♪ 「文芸閑談・今官一氏」
 22 夕「中田邦造先生」梶井重雄
 23 「文化県か」芦田高子
 ♪ 「文芸思潮史の役割」瀬沼茂樹
 24 「白山・第一流の山となるだろう」深田久弥
 ♪ 「加能源平物語」山崎利一 11・20 88回完（前中篇）
 26 「日本文学批判に精彩、アメリカ文学セミナー終る（☆記事）」
 ♪ 「文芸閑談・南条範夫氏」
 27 「画と需要」石井柏亭
 ♪ 「近詠」（☆5首）近藤芳美
 9 2 「仏教思想と文学の問題―丹羽文雄『菩提樹』を中心に―」
 長田恒雄
 4 夕「加藤武雄の思い出」木村毅

- 95 「イギリス文学は昔昏か」高村勝治
 6 「鏡花の忌に」芦田高子
 ♪ 「エスプリのある名言」佐伯彰一
 ♪ 「熱烈な山恋いの情」深田久弥
 ♪ 「中間雑誌評十月号」無署名
 7 「鏡花先生を偲ぶ」岩田藤七
 ♪ 「非情の文学カミユの復活」白井浩司
 ♪ 夕「舟橋聖一と私の奇縁」新保辰三郎
 9 「秋三題」川田順
 10 夕「時代劇雑感」副田松園
 11 「戦後文学の継承者」奥野健男
 ♪ 「文芸閑談・有吉佐和子氏」
 ♪ 「書いて極楽みて地獄か」大井広介
 14 「七十の秋」江戸さい子
 ♪ 「まず老後の平和を」洪沢秀雄
 16 「作者の言葉」山手樹一郎
 18 「文芸閑談・丹羽文雄はめる十返肇氏」
 ♪ 「大名囃子」山手樹一郎 32・4・28 221回完
 19 「これが日本人」奥野信太郎
 ♪ 「望の夜」中村汀女
 ♪ 「航空文学について」村上啓夫
 21 「河」(☆5首) 斎藤史
 23 「今月の詩歌俳壇」無署名
 26 「太陽を汚す」太陽族」村岡花子
 ♪ 「近詠」(☆5首) 近藤芳美
 27 「書評佐多稲子『いとしい恋人たち』他」太田順子
 28 「朔太郎、犀星を越え」中村慎吉
 ♪ 「勤労詩の前進のために」中村和夫
- 928 「佐佐木先生の歌碑」井幡弥生
 103 「世界の文学の現状・中国」魚返善雄
 4 「美術書ブームは楽し」高光一也
 ♪ 「土屋文明『万葉名歌』」加賀淳子
 ♪ 「井上光晴『書かれざる一章』」武田繁太郎
 ♪ 「中間雑誌評」無署名
 7 「世界の文学の現状・アメリカ」高村勝治
 9 「金沢の印象と俳句よもやま話」(☆座談会、虚子、立子他)
 ♪ 「俳句を大きくする道」西東三鬼
 11 「田村たつ子『パリの艶』」森田たま
 ♪ 「杉浦民平『細胞生活』」荒正人
 ♪ 「伊藤整『若い詩人の肖像』」瀬沼茂樹
 12 「文芸閑談・壺井栄氏」
 ♪ 「近詠」(☆5首) 尾山篤二郎
 18 「犀星『三人の女』」成松美代
 ♪ 「久保田正衛『蓮如』第二卷」橋本芳契
 ♪ 「窪田空穂『万葉秀歌』」藤田福夫
 19 「魯迅の思い出」長与善郎
 ♪ 「魯迅を読んだ頃」青野季吉
 ♪ 「歌人で独文学者の高安氏来沢」(☆記事)
 22 「迷情をぬぐうもの」藤原鉄乗
 23 「日ソ復交に思う」米川正夫
 24 「七十一歳の郷愁」成瀬無極
 ♪ 「ゲーテは最高の星」相良守峰
 ♪ 「高く想い低く生くべき」高橋健二
 ♪ 「透明」(☆5首) 斎藤史
 25 「田宮虎彦『落城』」武田繁太郎
 26 「一向変、千日はなし」久保田正衛

- 10 26 「出入自在の人―晧烏先生の三周年を迎えて」岩見護
28 「読書と主婦」丸岡秀子
29 「早刈り早食い」和田伝
〃 「ファウストの再評価」高橋義孝
〃 「文芸閑談・青野季吉氏」
31 「金沢人のしぶとさ―鏡花・秋声のことども（談話）」勝本清一郎
〃 「デカルトからスタンダールへ」白井浩二
〃 「竹田出雲の二百年忌」河竹繁俊
11 1 「書評『雑種文化』」中村真一郎
〃 「書評『現代日本の作家』」小田切秀雄
3 「日本の菊」春山行夫
〃 「近詠」（☆5首）近藤芳美
5 「地方大学教師の明暗」小松伸六
〃 「文芸閑談・高橋義孝氏」
6 秋桜子、能登を語る（☆記事）
〃 「落葉の句」橋本多佳子
7 「晧烏敏全集第一巻・推薦の言葉」武者小路実篤
10 夕「一茶百三十年忌」殿田良作
11 「書評『自選佐藤春夫全集』第一巻」村野四郎
12 「卯辰山の洗心庵」宮島 肇
〃 「万葉、源氏、近松など」山本健吉
13 「作者の言葉」丹羽文雄
14 「四書の次に司馬遷の史記」奥野信太郎
〃 「これからの作文教育」国分一太郎
15 「独断的だが意欲作―三島由紀夫『金閣寺』を読んで」井上冒一郎
16 「美的基準の変遷」大井広介
11 17 「四季の演技」丹羽文雄 32・9・14 300回完
18 「自由と平和の調和」安倍能成
21 「近詠」（☆5首）近藤芳美
〃 「本多阿波守切抜帳」吉田圭蔵 12・30 40回完
22 「アメリカ戦争小説の先駆二編」牧田徳元
〃 「書評『紫苑物語』」小泉譲
23 「個性への思慕と倒錯―葉忌に寄せる」船登芳雄
26 「御守の効能」奥野信太郎
〃 「文芸閑談・深沢七郎氏」
〃 「現代史の難解さに嘆声―十二月号総合雑誌から」樺俊雄
27 「貴い東洋の英知―『史記』について」深田久弥
〃 夕「婦人と装飾本能」板垣直子
28 「カフカ作をめぐる往復書簡」斎藤喜宏、藪内芳彦
〃 「女ごころ」田中澄江
29 「吉田健一『三文紳士』」神保龍一
12 3 「二つの文学賞」十返肇
〃 「二作家のどろ試合―徳永直と壺井栄」西敏明
〃 「中間雑誌評」無署名
5 「場末の雨」（☆5首）斎藤史
6 「書評『現代日本の思想』」進藤純孝
7 「世界史における日本」アーノルド・トインビー
〃 「トインビー史観の問題点」中屋健一
〃 「文芸閑談・火野葦平氏」
10 「現代ソ連文化の素描・文学」無署名
17 「アベックの外出」古谷綱武
18 「古い町新しい建築」五井孝夫
19 夕「話中音」牛丸芳夫
20 「書評 犀星『誰が屋根の下』」新保千代子

- 12 11 「書評 椎名『愛と自由の肖像』」 谷本敏雄
 21 「神話の新しい活用」 石母田正
 「日本紀年輪の方向」 高瀬重雄
 「週刊誌ブームの背景」 森正夫
 25 「能登の荒磯―秋桜氏今秋の力作」 黒田桜の園
 「師走の夢」 神保龍一
 26 「深瀬の人形浄瑠璃」 副田松園 28・31 全3回完
 「一九五六年回顧・詩壇」 高橋新吉
 27 「岩波講座『現代思想』第一巻を読んで」 神力甚一郎
 「石川達三『悪女の手記』」 金崎肇
 28 「雪におもうこと」 石井俊之
 「前田松雲公と一柳直興」 秋山英一
 30 「作者のことば」 工清定

(この稿、了)